

産・学・官で連携し、長崎大学経済学部生と食・農のグループワーク

大学側からの「生産現場の生の声を学生たちに聞かせてほしい」という要望を受け、農業経営における課題解決方法、販売戦略等のアイデアを生産者が直接学生から募集する講義を実施。

○ 施策分類

農政の方向性、環境、消費者対策

○ きっかけ・背景、課題の把握

長崎大学においてはプラネタリーヘルス（地球の健康）に資する人材輩出を目標としており、入学早々に関係する講義を受けているが、その後環境問題に関するシラバスがない。一方、県拠点は、食と農を専攻する学校以外のZ世代への働きかけが課題。

○ 取組の内容

大学側からの、学生に対して一方通行にならないよう、生産現場の声を直接聞く機会を提供し、農業経営について考えるきっかけ作りをしてほしいとの要望を受けて、2人の農業女子PJメンバーが、畜産、果樹経営について講演し、販売戦略等のアイデアを学生から募集。また、九州農政局から基本法等に関する情報を提供。

○ 効果・成果、今後の方向性

食・農専攻以外の教育機関のシラバスで、食・農について講演等実施したのは、九州農政局管内で初めて。

「産（2人の生産者）」は、学生目線の意見を聞くことができ、自らの経営戦略にも活かされると今後の継続を希望しており

「学（大学）」は、継続実施と農業現場でのフィールドワークの支援を要望している。「官（農政局）」としては、学生から食・農に関する意見を聞くことができ、学生からは生産者側の経営戦略を知るきっかけ作りとなった等の意見が得られた。



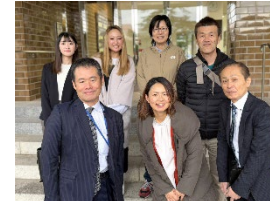
多彩なスピーカー



141名、30グループのディスカッションは壮観でした



ディスカッションには講師も参加



産・学・官チーム

体制図

